

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2013.12) 平成24年度:149～150.

ATP測定による保育器の清浄度評価

石上香、澁川紀代子

ATP測定による保育器の清浄度評価

旭川医科大学病院 感染制御部¹⁾

感染制御部専従医師²⁾

石上香¹⁾ 澁川紀代子²⁾

【おしり】
NICUにおける保育器の管理、特に交換頻度には、慣習的に行われている事が多く、日常清使用される消毒薬（洗浄剤）に関しても各施設によって異なっている。

今回、A病院のNICUにおいて

ATP測定（ATP測定器（ATP measuring instrument）
以下ATP測定）により保育器の清浄に関して示
得たので第1報を報告する。

2011年9月～2012年8月

保育器に収容されてから7日以降に保育器を交換
または、コットに移床した場合の保育器

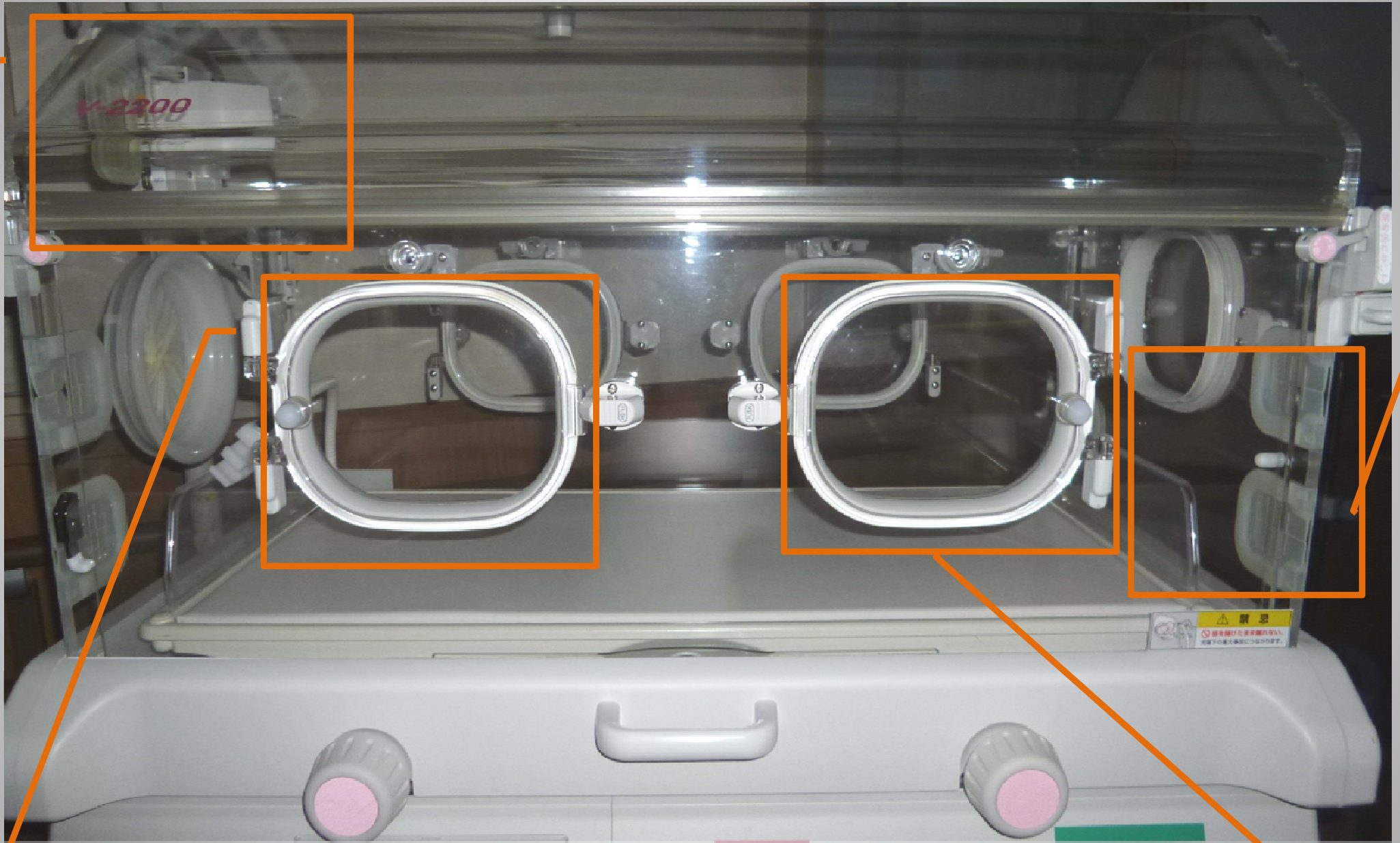
保育器交換の直前または、コットへ移床となる直前
ATP測定を行う。

保育器を両性界面活性剤を用いて清拭し、その後
拭きを1日1回行う。

ATP測定の場合は手入窓のドアのパッキン部、頭
元の4点とする。

ATP測定は3M社製のATP測定器ルミノメーター
LUX100 ATP測定用試薬 LUX100を使用した

手入窓位置図



頭側 手入窓パッキン部分

足側 手入窓パッキン部分

期間中、26台の保育器のATP測定を行った。

ATP測定した保育器は、いずれも目視可能な汚染を認めなかった。

保育器を使用した期間は、平均8.3日

最長期間は14日、最短期間は7日であったが使用期間による差は認めなかった。

【結果】

踵側と足側のATP値は高くなかった。

踵入窓で最大値を示した2台は、

いずれも外科手術後の

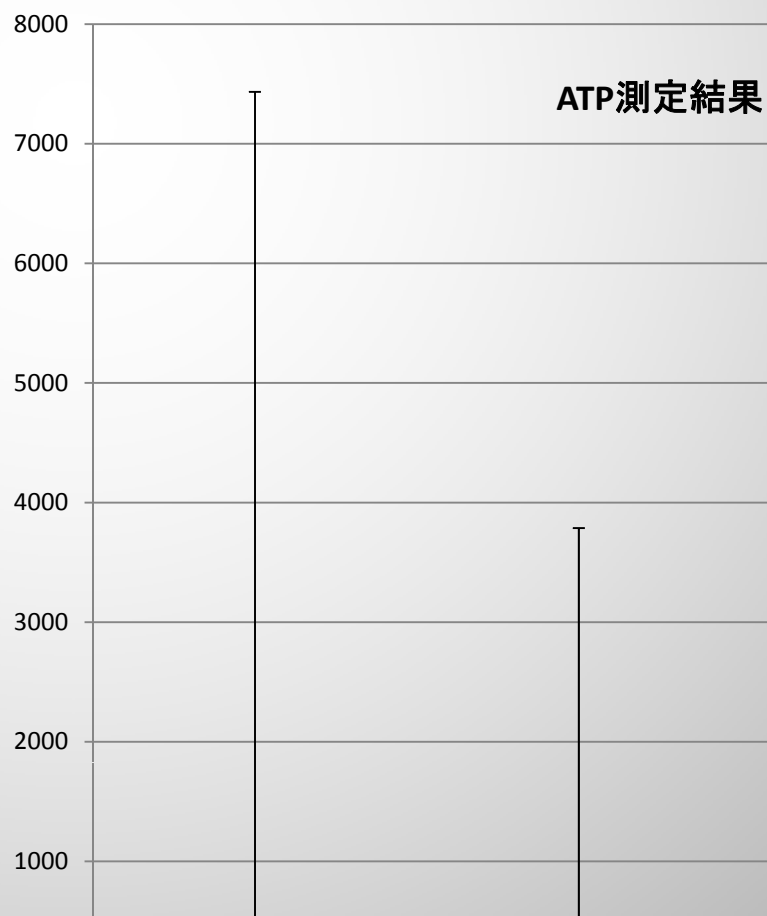
糸などの処置が

われた患児が

用していた。

期間中の対象者で

術患児は2名のみ)



頭側と足側はミルクの経腸注入や気管吸引、オシロイ交換による汚染の可能性があり、手が届きづらく、清掃困難な場所であるがATP値は低かった。



手が届かないため、ATP値が低かった可能性がある。

外科的な処置を行った患児の保育器の手入窓のATP値が高かった。



目視可能な汚染を認めなかったが、使用済みの器具や

今回は、ATP測定を実施した保育器の台数が少
、外科的な処置以外の条件について評価でき
なかった。

後は、在胎週数、処置の種類や頻度、家族の
などの条件による保育器の汚染や耐性菌獲
の関係性について調査し、清掃方法や交換時
について検討する必要がある。

保育器内は、目視可能な汚染がなくても処置
の操作により汚染されている可能性がある。

処置や家族の面会に応じて清掃を行うことで、
保育器の清浄度を保持し、保育器交換の間隔を延
びさせる可能性がある。